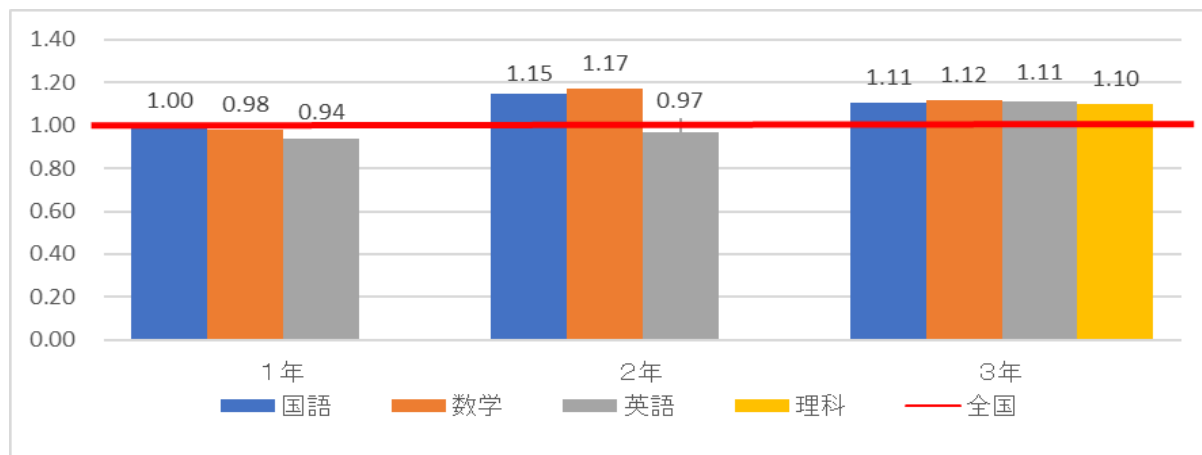


# 令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第十中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生（国・数・英）及び中学3年生（英）は、寝屋川市学習到達度調査  
中学3年生（国・数・理）は、全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習 到達度調査	国語	2年生は全国平均を上回り、1年生は「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国平均を上回った。「書くこと」領域に関しては課題がある。今後も言語活動を大切に学習活動を推進していく。
	数学	無答率が低く、根気よく取り組む姿勢がある。1年生は「平面図形」や、「単位量あたりの大きさ」の文章問題に課題が見られた。2年生は全国平均を大きく上回ったが、「平面図形」「空間図形」に課題が見られた。ICTを有効に活用し、図や立体をイメージできる工夫を施し記憶に残るよう取り組みたい。
	英語	リスニング問題は良好な結果であった。1・2年生は文構造や文法の理解が課題であり、語順を視覚化した指導や筆記での英問英答を通して定着を図っていく。3年生は全国平均を大きく上回る結果であった。「場面に応じて書く」問題に課題が見られたため、読み取る力の向上に取り組む。
全国学力・ 学習状況調査	国語	概ね全国平均を上回る結果であった。特に、「思考力・判断力・表現力」を問う記述問題や選択問題に対する正答率が高かった。一方、語句の意味を問う選択問題の正答率が全国平均を下回った。基本的な知識を習得するための活動や課題を取り入れていく。
	数学	「関数」「データの活用」領域において全国平均を大きく上回った。「数と式」の数学的な表現を用いて説明する問題、「図形」の証明について課題があるため、自分の言葉で説明する取組や相手に伝えるように書く・まとめる(証明等)取組に注力していく。
	理科	ほとんどの領域において全国平均を上回った。特に「生命」と「粒子」を柱とする領域で良好な結果を得ている。今後も知識・技能の確かな定着を図り、根拠に基づき説明する力を育んでいく。
	質問紙	「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足」「教科の学習が好き」等の項目で、肯定的回答が全国平均を大きく上回っており、研究テーマに基づく実践が反映されていると考えられる。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

校区研修や授業交流と共に小中一貫教科部会において、学力調査の結果分析を共有し、児童生徒の主体的な学びを実現する授業づくりを推進している。学びの土台となるべく、PBIS（ポジティブ行動支援）や、ディベート教育や道徳教育に注力し、論理的思考力、心の豊かさ等をはじめとする非認知能力の育成を図り、確かな学力を身に付けた子どもの育成をめざしている。

【 学 校 】

本校研究テーマ「わかった、できた」を実感する授業（自己肯定感の向上）づくり、物ごとを多面的に見る力（批判的思考力）を身につける授業づくりを掲げて3年目を迎えている。スモールステップの積み上げ、多面的多角的な思考を引き出す発問の工夫、振り返りの質を高める等を努力目標として学力向上に努めている。